

銀行ビジネスモデルのリエンジニアリング

～破綻しない銀行をつくることは可能か～

経済学部応用経済学科

○准教授 よしだやすし 吉田康志

キーワード

銀行経営, ビジネスモデル, ナローバンク

研究概要

銀行が経営破綻すると、その銀行の預金者等だけでなく、社会的にも大きな影響が及び、金融システム危機につながる可能性がある。

現代の金融システムでは、銀行の破綻に際して、以下のような様々な取組が行われている。

- ・ 事前的：銀行に対する当局の規制（検査、モニタリング）
- ・ 事後的：預金保険制度、中央銀行による「最後の貸し手」機能提供

こうした制度の維持には大きな社会的コストがかかっているが、そうしたコストを回避するための具体的な方策としての「銀行ビジネスモデルのリエンジニアリング」の効果や限界について検討した。

- ・ 改善案①：銀行のバランスシートの左側（借方）を改変し、「貸出債権」を国債などの安全な資産に置き換える「ナローバンク化」を行うことで、たとえ銀行取付が発生したとしても、十分な流動性が確保されていることから不払いとなることはない。
- ・ 改善案②：銀行のバランスシートの右側（貸方）を改変し、「預金」による調達を「投資信託受益権」による調達にすることで（投信バンク化）、たとえ資産価値の毀損が生じたとしても、債務超過となることはない。

「銀行ビジネスモデルのリエンジニアリング」の二案のうち、「ナローバンク化」には、信用創造機能が欠如しているため、経済に対してマネー（預金通貨）を供給することができない。また、「投信バンク化」については、信用創造機能を備えることは可能であるものの、ある程度のセーフティネット（規制や預金保険制度等）を用意する必要があることから、相応の社会的コストがかかる。

以上を踏まえると、「銀行ビジネスモデルのリエンジニアリング」による新しい銀行のビジネスモデルは、個別銀行における新しい経営戦略上の選択肢とはなりうるが、他方、新ビジネスモデルを銀行システム全体に渡って適用することは適切ではないと考えられる。

アピールポイント

本研究が提案する「銀行ビジネスモデルのリエンジニアリング」の結論は、既存の銀行や新規に銀行設立を検討している主体が、ビジネスモデルを模索する際に、経営戦略上の示唆を与えるものと考えられる。

また、今後の金融システム改革議論において、銀行のビジネスモデルを抜本的に見直す方向での提案が検討される場合には、本研究の結論は、留意すべき重要な論点を提示することが期待される。